

まちづくり検討委員会の活動をシリーズでお知らせしてきましたが、今月最後のテーマ「行財政改革」についてお知らせします。

テーマ

「行財政改革」

行財政改革の意義

●行政改革の定義と町民の意識
無駄な経費を削減し、必要な事業に積極的に投資をし、町民の安全・安心に配慮とあります。町民、産業分野ごとに情報収集、研究、研修など専門分野での知識を修得するべきだと思います。近年、議会においても、地域の声を聞き、町民と交流し協議をすることがないと思われず。町民の代表としてまちづくりに携わる人としての自覚を再認識していただきたいと思えます。また、町政懇談会はありませんが、もつと町民の声を聞きやすい方法はないものではないでしょうか。

●行政改革は、町民・行政の共通の目標を実現するための目的を明らかにした方向

町章のピンバッジのようなものを作成し、それをつける程度にしたほうがよいと思う。

町職員の意識改革

●職員の成績表をつくる

役場(官)と企業(民)の大きな違いは「給与が保証されている」ことだと思ふ。給与が保証されていてみんな同じだと、モチベーションを上げにくい。しかし、制度などの関係でおそらく給与体系を変え難いと思うので、代わりに仕事の成績表をつくり職員ランキングとして公表する。成績は職員に対しては課長、課長に対しては町長や議会など、町長・教育長などに対しては職員がそれぞれ評価する。(基本的な仕事や姿勢などから評価指標をつくり、数値化する)全職員のランキングを表示してしまふと、名誉棄損などの問題がありそうなので、ピリから10人は表示しないなどの方法をとる。(このくらいだと危機感からモチベーションが上がる)

●接客マナーやホスピタリティの精神
庁用車で出かけることが息抜きになっていないだろう

で進む事が必要

町民は、「行政としてどれだけやったかではなく、町民にとつてどれだけ成果があったか」を求めているのではないのでしょうか。町民の視点よりも、ルールを重視しがちな計画に対しては、町民と行政との協働が少ない。より一層なPDCAの行政サイクルの活用が必要ではないでしょうか。

※PDCAサイクルとは、Plan(計画)、Do(実施、実行)、Check(点検、評価)、Act(改善)の頭文字で、継続的な業務改善を行う際の考え方

●先送り行政改革は、何の解決も生まれない

次世代への責任は、今の町政・町民にある。改革の優先順番があると思う。手短なところからではない。「民間経営の理念」を持って、改革を

推し進めて欲しい。第2の夕張市にならないよう、改革を推し進めるべきと思う。町民も利害関係ではなく、町の改革に協力して行く気持ちが必要。

●行財政改革は削減だけでは

人員の削減には限界がある。町民へのサービス低下は、行政(役場)への不満になりがちです。限られた税を最大有効に活用することが、行政の責任であると思います。徴収するものは徴収して、最大限活用する。

新・七ヶ宿町行財政改革実施計画書(集中改革プラン)の中にはないようですが、町議会議員の報酬は、日当制実費支給として、町議会や委員会などの正規の会議や町の主催行事に出席した場合として年間限度額も同時に決める。どうでしょうか。

財源の確保

●町の新しい収入源をつくる

現在も町の財政は、様々な改革や節約が行われていますが、これから先、どんどん高齢化が進むことで納税者が少なくなっていくと思われる。そんな中、七ヶ宿のこれ

からの豊かさ、広がりを作り上げるため、新しい収入源として水力発電が有効と思われる。具体的な数字や他の導入事例などを参考に検討したいと思う。

●光熱費ゼロ集落を目指す

滑津大滝で水力発電を役場で管理する。確実に恒常的に電力確保が見込めるなら電力課を作る。少し前なら「景観が・・・」と言われたかもしれないが、今なら逆にクリーンでエコなイメージづくりになるだろう。滑津地区の承認と協力ももちろん必要、「元気な地域づくり・・・」事業とタイアップできないか。七ヶ宿町民に電力を等しく分配したら、移住者も期待できるかもしれない。

町民の持つ行政(役場)に対するイメージを知る

平日頃生活していると、役場に対しての会話になることがある。いいこともあるが、悪いことも結構多い。ただし、ほとんどが陰口であつて、直接役場に意見を言う機会はない。そこで、匿名で町民に役場に対する思いや意見を聞く方法を考える。



住民のためのサービスを提供できているか

ホームページをもっと活用する

現在の町のホームページでは、おそらく一度見たら終わりでと思う。ゆり太郎ブログのように、頻繁な更新が重要だと思うので、外注ではなく役場職員で作成する。デザインも大事だが、コンテンツのほうをもっと大事なので、コンテンツの充実を図る。仮にコンテンツが見当たらないければ、些細なことでもいいから作るくらいの気持ちで!

スーツ・作業着をやる

役場の人IIスーツまたは町章入り作業着というイメージがある。個人的な感想だが、服装のせいで町民との間にハードルがあるように思う。服装は全員私服にし(フオーマルな場を除く)、代わりに

新・七ヶ宿町行財政改革実施計画の実行

集中改革プランを読ませてもらうと、相当細部にわたる検討がなされているので、その実行が大切だと思います。



住民サービスの拠点となる役場庁舎、永遠に存続していきたい

職員の専門的知識と人事異動

各産業は、役場との関わりが大きいが、職員の専門知識のなさに愕然とする。職員は、少しでも現場に来ると違うと思う。地域材利用組合も人事異動で趣旨を見事に忘れていく。街並み景観条例の趣旨も忘れられている。人事異動や時間の経過で、事業がスタートしたときの思いを忘れていないか。また人事異動のサイクルが早く、あまり異動があると町民としては相談しづら

